



コーポレートガバナンス委員会委員長
筆頭独立社外取締役 井上 佳昭

コーポレートガバナンス委員会委員長を務める筆頭独立社外取締役の井上佳昭氏に、当社グループの強みや新しい経営計画等についてお話を伺いました。

当社グループの強みや成長ポテンシャルについて、どのように見えていますか？

当社グループは、各々で地域に根ざした2銀行が互いに切磋琢磨しながら成長してきているところに強みがあります。一方で、今後の成長ポテンシャルについては、東京や大阪など大都市圏がより大きいと考えられ、各々のエリア外での活動については、トモニブランドの下で、徹底的なシナジー効果の追求が必要だと感じています。

それとは別に、銀行業界を取り巻く環境が厳しくなっても、業界の波に飲まれずに成長し続けられるようなポートフォリオを形成するためのゲームチェンジ施策の実現についても期待しています。

第6次経営計画がスタートしましたが、取締役会における議論の中で、特に重視したポイントは何ですか？

第5次経営計画は、10年後の目指す姿の実現に向けて順調に達成できているため、第6次経営計画は概ね第5次経営計画を継承発展したものになっています。

その中においても、先ほど触れたシナジー効果の最大化を図ることに加えて、トモニホールディングスとしての施策の優先順位の明確化、言い換えると

主な経歴

昭和61年 大阪ガス(株)入社。

子会社である大阪ガスLPG(株)の代表取締役社長を務めたほか、大阪ガス(株)の執行役員として経営に関与。

令和3年には、さくら情報システム(株)の常勤監査役として、システム・ガバナンスに貢献。

選択と集中によって、グループ全体の方向性をより明確化にし、施策の最大限の効果を上げることが可能になると思います。

また、環境の変化、特にグローバルな環境の変化は益々激しく、先の読めない状況であることは衆目の一致するところでは、そのような状況の中では、一旦掲げた中期計画であっても、それを如何に素早く変化に対応させていくかが、リスクマネジメントであるとともに、ビジネスチャンスにも繋げていけるものと考えています。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、当社グループの課題は何だと考えていますか？

好調な業績を背景に、株主還元政策については配当性向を含めて、従前とは違うステージに上がったと感じています。計画通りに進めば問題はないのではないのでしょうか。

一方で、今後、仮に厳しい環境となった際でも、できる限り安定的な配当を続けることで、長期的なご支援をいただいている株主さまにお応えする必要があると思います。

そのためには当たり前ですが、安定的な業績を上げ続けるために、長期短期双方をバランスよく見据えたサステナブルな経営の実現が必要です。

私も微力ながら尽力したいと考えています。